

わが家の地震対策

耐震性を確認し、建物を安全にしましょう。

- 耐震基準：1981年以前・以降、2000年以降と、大きく3つに分けられます。
- 旧耐震基準1981年以前の建物→震度5程度までの地震を想定
 - 新耐震基準1981年6月以降の建物→震度6～7の大地震を想定
 - 2000年基準2000年以降の建物→新耐震基準に加え、地盤調査の実施・接合部の金物使用・耐力壁バランス

羽島市内の現状

(平成30年住宅・土地統計調査による推計)

耐震化されている住宅 84%

出所：羽島市耐震改修促進計画(R3.4)



家の中の安全対策

寝室や子供、お年寄りが居る部屋には家具を置かない



- 阪神・淡路大震災では家具の転倒や家屋の倒壊により、圧死・窒息死した人の割合が80%を越えています。
- 家具の配置に注意するとともに、しっかりと固定し転倒を防ぎましょう。また、必要に応じて家屋の耐震改修を行いましょう。

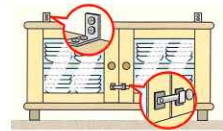
ガラスの飛散を防止する



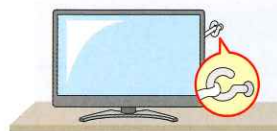
- 阪神・淡路大震災では、割れたガラスの破片だけで怪をする人が多く見られました。
- 窓ガラスや食器棚などに、飛散防止用のフィルムを貼っておきましょう。

家具を固定するポイント

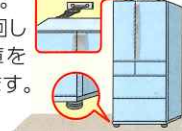
- L字金具で壁に固定します。
- 二段重ねの場合は、つなぎ目を金具で連結します。
- 家具と壁の間に隙間があると倒れやすいので、家具の下に三角形の板を敷きます。
- L字金具で壁に固定します。
- 棚板には滑り止めにふきんなどを敷きます。
- 開き戸には留め金具をつけます。



- 一般のテレビには、背面に固定用の穴が付いています。この穴を利用してロープを結び、金具に連結して壁・柱に固定します。



- 専用の転倒防止器具が用意されていることがあるので、取扱説明書で確認します。
- 市販の冷蔵庫転倒防止ベルトで固定します。
- 調節足を回して、冷蔵庫を安定させます。



地震が起きたら

地震が起きたら、まず最初に**身の安全を確保**しましょう。

その後、地域の一時避難場所に集合し、ご近所の安否確認をしましょう。余震等から身を守るため、公園や学校のグラウンドなどの指定緊急避難場所等に避難しましょう。避難の際、ご近所の避難行動要支援者(自ら避難することが困難な方)の避難をサポートしましょう。

余震がおさまってからの避難生活は、**在宅避難**が基本です。自宅の倒壊等により在宅避難が不可能な場合は、指定避難所等に避難しましょう。避難所では避難者の数により、十分なスペースや物資が提供されない場合があります。また避難所ではルールを守り、トイレ掃除や炊き出し等の避難所運営に参加してください。

①まず、わが身の安全を守る!

なによりも大切なのは命。地震が起きたらまず最初に身の安全を確保しましょう。



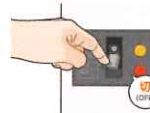
②火の始末は、ちょっと待って!

揺れが激しいときは危険です。揺れがおさまってから、あわてず無理せず確実に火の始末をしましょう。



③ブレーカーを切る!

停電復旧時の通電火災を防ぐため、自宅を離れる場合はブレーカーを切りましょう。



⑤外に逃げるときはあわてずに!

外に逃げるときは、瓦やガラスなどの落下物に注意し、落ちていて行動しましょう。地域の一時避難場所に集合し、ご近所の安否確認をしましょう。



④扉を開けて、出口を確保!

強い揺れで建物が歪み戸が開かなくなることがあるので、避難出口を確保しましょう。



⑥避難は歩いて!

避難をするときは、ブロック塀や電柱等に注意し、原則として歩いて避難しましょう。車での避難は緊急車両の通行の邪魔になります。貴重品のほか非常用品、食料、水などを持って、避難しましょう。



非常持ち出し品・備蓄品

避難所の備蓄品には限りがありますので、各自で十分な準備をすると安心です。非常持ち出し袋には、両手の空くリュックサックが便利です。重すぎないかどうか、いちど背負ってみましょう。

- あまり重いと避難行動に支障があるので、重すぎる場合は減らしましょう。
- 水を注ぐだけで簡単にできる、比較的軽い乾燥食品などを用意しましょう。
- 各自に1つのリュックを用意し、それぞれ持ち出しやすい場所に分散して保管しましょう。
- 在宅避難に備えた備蓄品(簡易トイレ、発電機等)を用意しましょう。



令和6年3月

地震に備えて

地震が発生した時に被害を最小限に抑えるには、一人ひとりがあわてず適切な行動をとることが大切です。そのために、地震について知っておきましょう。

マグニチュードと震度

地震の規模はマグニチュード(M)で表されます。マグニチュードが0.2上がれば約2倍、1.0上がれば約32倍のエネルギーを持ちます。

また震度とは、ある地点で感じる揺れの強さを数字で示したものです。マグニチュードが大きくても震源から離れていれば、震度は小さくなります。

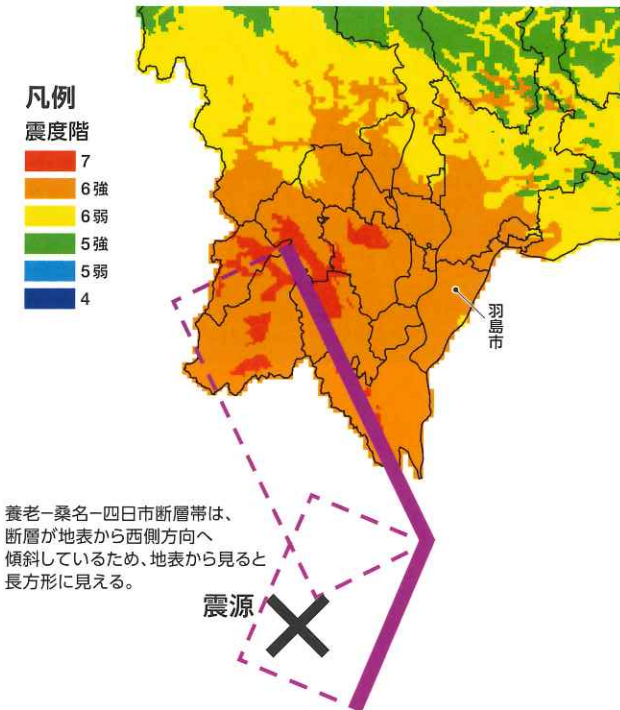
震度階級

人の体感・屋内の状況

震度7	立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされることもある。	固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛ぶこともある。
震度6強		固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。
震度6弱	立っていることが困難になる。固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。	
震度5強	大半の人が、物につかまらなと歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。棚にある食器類や書棚の本で、落ちるものが多くなる。テレビが台から落ちることがある。固定していない家具が倒れることがある。	
震度5弱	大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。電灯などのつり下げ物は激しく揺れ、棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。	
震度4	歩いている人のほとんどが、揺れを感じる。眠っている人のほとんどが、目を覚ます。電灯などのつり下げ物は大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てる。座りの悪い置物が、倒れることがある。	

羽島市 市長室 危機管理課 ☎392-1111 (内線5102)

養老-桑名-四日市断層帯地震 〈M7.7〉



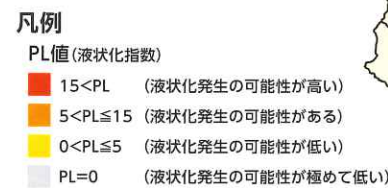
人的被害(人)*		建物被害(棟)		避難者(人)
死者	負傷者	全壊	半壊	
136	1,360	3,637	7,139	12,880

※ 冬の朝5時発生を想定

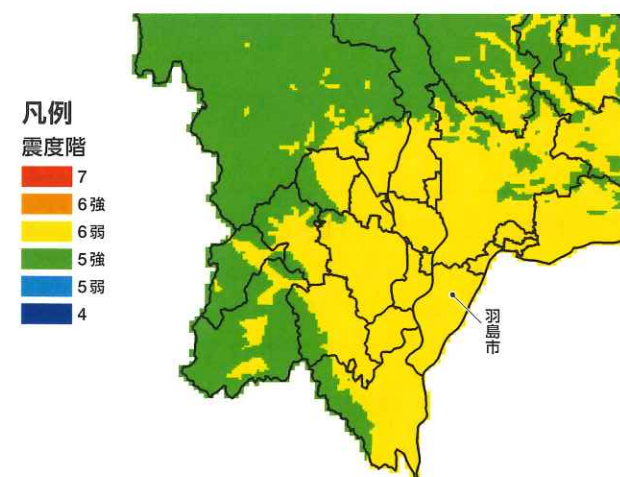
「養老-桑名-四日市断層帯」は垂井町から三重県四日市市におよぶ断層(約60km)であり、内陸直下型地震の震源域として羽島市に最も影響があると考えられています。平成23年度～平成24年度岐阜県南海トラフの巨大地震等被害想定調査(以降、県被害想定調査)によると、この地震では羽島市のほとんどの地域において**震度6強**の揺れが予想されています。

液状化危険度分布

羽島市全域において、**液状化が発生する可能性が高い**と予測されています。



南海トラフ地震 〈M9クラス〉



人的被害(人)*		建物被害(棟)		避難者(人)
死者	負傷者	全壊	半壊	
20	488	1,852	4,549	7,341

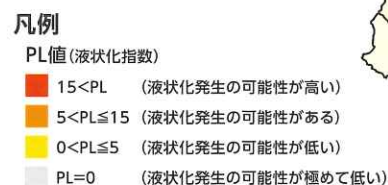
※ 冬の朝5時発生を想定

南海トラフとは、静岡県駿河湾から四国沿岸、九州東方沖まで続く深さ4,000mのプレートの境界です。この地域で起こりうる地震の総称を「南海トラフ地震」といい、ほぼ100年から150年に1度、大規模地震が繰り返し発生しています。

県被害想定調査によると、この地震では羽島市全域において**震度6弱**の揺れが予想されています。

液状化危険度分布

羽島市全域において、**液状化が発生する可能性が高い**と予測されています。



地震は一度では終わらないかも ～時間差で起きる場合も～



今後30年以内に発生する確率が70～80%であり、昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から既に70年以上が経過していることから切迫性の高い状態です。

地震発生後の防災対応の流れ

